

No.	紙名	西暦	元号	年	月	日	見出し
1	越後日報	1902	明治	35	10	8	岩野原葡萄園(八)
2	高田新聞	1903	明治	36	7	19	鉢崎地方油田臨検
3	上越日報	1907	明治	40	9	20	「高城村献地後の村経済」を読み敢て高城村民に告ぐ
4	高田日報	1909	明治	42	6	20	直江津最寄町村長会
5	高田時報	1909	明治	42	11	10	(高田町)下筋の発展策(下)
6	高田日報	1910	明治	43	3	29	直江津の水害
							高田町予算
7	高田日報	1910	明治	43	5	17	彗星会見記 偕行社の屋根へ出る 時間は午前三時頃 (ハレー彗星)
8	高田日報	1910	明治	43	6	26	師団長の官舎
9	高田日報	1910	明治	43	7	14	今夜の直江津 (祇園祭)
10	高田日報	1910	明治	43	7	18	高田局の電報数 電話が出来て減る
11	高田日報	1911	明治	44	1	22	市制施行確定 二十日の市制調査委員会
12	高田新聞	1911	明治	44	3	25	中頸城の諸物価
							二本木駅の開業
13	高田日報	1912	明治	45	5	18	衆議院議員選挙結果
14	高田新聞	1912	大正	1	8	1	北越の御巡幸(二) 今はた忍び奉るも涙
15	高田新聞	1912	大正	1	8	2	北越の御巡幸(三) 今はた忍び奉るも涙
16	高田新聞	1912	大正	1	8	3	師団哀悼式
17	高田新聞	1912	大正	1	8	4	高田附近水害 島田仮橋流失 洪水被害報告
18	高田新聞	1912	大正	1	8	5	直江津水害報告
19	高田新聞	1912	大正	1	8	6	輸出入貨物状況 (直江津駅鉄道輸送)
20	高田新聞	1912	大正	1	8	7	芳澤(謙吉)漢口総領事
21	高田新聞	1912	大正	1	8	8	北越の御巡幸(四) 今はた忍び奉るも涙
22	高田新聞	1912	大正	1	8	9	北越の御巡幸(五) 今はた忍び奉るも涙
23	高田新聞	1912	大正	1	8	10	上越急施工事 五十万円に達す
24	高田新聞	1912	大正	1	8	11	軽鉄免状下附 (軽便鉄道敷設)

No.	紙名	西暦	元号	年	月	日	見出し
25	高田新聞	1912	大正	1	8	12	発電所設置計画 信濃電気会社の (杉野沢地内)
26	高田新聞	1912	大正	1	8	13	軽鉄免許状 軽鉄延長協議 軽鉄許可条件
27	高田新聞	1912	大正	1	8	14	軽鉄許可条件(続き)
28	高田新聞	1912	大正	1	8	15	役場新築地 敷地は二ヶ所 (直江津町)
29	高田新聞	1912	大正	1	8	16	加入区域外通話料 (料金 *長岡～柏原、直江津～柏原、高田～柏原)
30	高田新聞	1912	大正	1	8	18	高田病院創立記念日
31	高田新聞	1912	大正	1	8	19	板倉村耕地整理
32	高田新聞	1912	大正	1	8	20	上田の地震 其の続報
33	高田新聞	1912	大正	1	8	22	富直線開通期
34	高田新聞	1912	大正	1	8	24	悪徳新聞退治 (高田毎夕新報記者)
35	高田新聞	1912	大正	1	8	26	信越線の支障 信越線支障別報 上越出水被害
36	高田新聞	1912	大正	1	8	31	能生の牛馬市
							直江津役場移転
37	高田新聞	1912	大正	1	9	1	郷津油田視察
							(西頸城郡)産馬組合の糶市
38	高田新聞	1912	大正	1	9	8	越佐航海拡張 佐渡商船会社組織
39	高田新聞	1912	大正	1	9	13	遙拝式敬礼作法 神宮奉斎会直江津支部 神官 川合祐治談
40	高田新聞(号外)	1912	大正	1	9	14	師団弔砲式 軍隊の遙拝式 高田市遙拝式 各学校の奉悼 各寺院の奉悼 大葬と直江津、新井町
41	高田新聞	1912	大正	1	9	15	高田市遙拝式 新井の遙拝式
42	高田新聞	1912	大正	1	9	16	県立各校遙拝式 汽車発着時間表
43	高田新聞	1912	大正	1	9	17	先帝五十日祭 高田中学校奉悼
44	高田新聞	1912	大正	1	9	18	武士道地に落ちず レ中佐の談 (乃木希典の殉死についてのレルヒ中佐の感想)
45	高田新聞	1912	大正	1	9	19	鉄道院の測量 (高田・安塚間、直江津・安塚間の新設鉄道)
46	高田新聞	1912	大正	1	10	3	商船会社組織 新潟夷間定期航海
47	高田新聞	1912	大正	1	12	4	スキー支部組織
48	信越新聞	1913	大正	2	1	4	軍隊室扶斯予防 (高田歩兵第五十八連隊)

No.	紙名	西暦	元号	年	月	日	見出し
49	高田新聞	1913	大正	2	4	1	【社説】北陸線の全通 全線建設概況 沿線名所旧跡
50	高田新聞	1913	大正	2	4	2	直富臨時列車 富直線と富山 (全通当日の賑ひ)
51	高田新聞	1913	大正	2	5	5	高田図書館雑事 (4月中の利用者・貸出図書 of 統計)
52	高田新聞	1913	大正	2	5	7	中頸各町予算 (大正二年度中頸城郡各町村歳入歳出予算統計)
53	高田新聞	1913	大正	2	7	6	高田徴兵検査
54	高田新聞	1913	大正	2	7	11	在京記念祭委員 (高田開府三百年祭の在京者委員囑託)
55	高田毎夕新報	1913	大正	2	8	12	開府祭彙報 (寄附金の通牒、郡部寄附金、宝物拝観券、元売捌の照会、駐車場の広告)
56	高田新聞	1913	大正	2	8	23	寄付者の優遇 高田市三百年祭の
57	高田新聞	1913	大正	2	9	10	開府三百年祭 寄稿:吉田東悟、増田義一、小川未明、榊原政和
58	高田新聞	1913	大正	2	9	13	高田三百年論(二):吉田東悟 高田開府祭彙報
59	新潟毎日新聞	1913	大正	2	9	14	高田開府三百年祭特集
60	高田新聞	1913	大正	2	9	16	上越の事業界及び其発展策:清水宜輝 高田の繁栄策と史上の殷鑑:大倉喜八郎 (高田開府三百年祭)
61	高田新聞	1913	大正	2	9	21	高田三百年論追記:吉田東悟
62	高田新聞	1913	大正	2	10	10	本県の産油額 児童保護会発会 (安塚村)
63	高田新聞	1914	大正	3	1	11	クリスマス (日本メソジスト教会)
64	高田新聞	1914	大正	3	2	14	新井町の戸口
65	高田日報	1914	大正	3	5	9	中頸と共同苗代
66	高田新聞	1914	大正	3	5	18	妙高山の破崩 (前日の号外を再録)
67	高田新聞	1914	大正	3	5	19	妙高大崩破詳細
68	高田日報	1914	大正	3	5	25	遙拝式 (昭憲皇太后葬送)
69	高田日報	1914	大正	3	5	26	新井乗合馬車
70	高田新聞	1914	大正	3	5	27	愈発疹チフスと決す 高田に來襲の虞あり
71	高田新聞	1914	大正	3	5	29	中頸缶詰産高
72	高田日報	1914	大正	3	7	25	西頸昼間送電 早川発電所の活動
73	高田日報	1914	大正	3	8	4	政友会遊説の効果

No.	紙名	西暦	元号	年	月	日	見出し
74	高田新聞	1914	大正	3	8	14	信越線不通となる 追分沓掛間線路瀧の如し、暴風雨猛烈開通の見込たらず
75	高田新聞	1914	大正	3	8	24	日独開戦 (検閲記事)
76	高田新聞	1914	大正	3	8	25	芳澤襄良氏葬儀 (芳澤謙吉の父) ※2部あり
77	高田新聞	1914	大正	3	11	8	直町電気問題 両者の言分 (直江津町と越後電気会社)
78	高田新聞	1914	大正	3	12	3	東頸予算と賦課 東頸城郡予算
79	高田新聞	1914	大正	3	12	29	直町局と年賀状 (直江津郵便局年賀状取扱高)
80	高田新聞(第二)	1915	大正	4	1	1	徹底と努力 小川未明
81	高田新聞(第三)	1915	大正	4	1	1	西洋の衛生と日本の衛生(一) 高田市水道設置に就て 瀬尾雄三
82	高田新聞(第四)	1915	大正	4	1	1	新井町芸妓屋組合
83	高田新聞	1915	大正	4	3	30	信越線の寝台車
84	高田新聞	1915	大正	4	5	6	大雪崩惨害の詳細 重傷者三名、内一名死去 (妙高山麓)
85	高田新聞	1915	大正	4	5	11	代議員会 中頸城教育会
86	高田新聞	1915	大正	4	5	17	紅焰社の寺町を蔽ふ 業火忽ち焼き尽くす廿八ヶ寺
87	高田日報	1915	大正	4	5	18	荒廃せる森の都 灰滅せる伽藍三十字 損害建築樹木のみにて三十七万円 残火尚炎々天を焦がす(寺町大火)
88	高田新聞	1915	大正	4	5	18	業火の名残 火災余聞 (寺町大火)
89	高田新聞	1915	大正	4	5	20	越電疑獄 (越後電気株式会社元専務取締役 金子伊太郎)
90	高田新聞	1915	大正	4	5	26	高田市会
91	高田新聞	1915	大正	4	5	29	小学検定試験問題 (高等師範学校に於ける小学校教員試験問題)
92	高田新聞	1915	大正	4	6	2	帝国議会議事 (貴族院本会議、衆議院本会議)
93	高田新聞	1915	大正	4	6	3	故高橋氏弔辞 (高田日報社長、立憲国民党頸城支部長、衆議院議員)
94	高田新聞	1915	大正	4	6	20	和田村矢代川改修工事落成
95	高田新聞	1915	大正	4	6	21	越電疑獄余報
96	高田新聞	1915	大正	4	6	23	東頸納税成績 県下の第一位
97	高田新聞	1915	大正	4	6	24	越電株主総会
98	高田新聞	1915	大正	4	6	28	列車内へ扇風機 (信越線一等室)
99	高田新聞	1915	大正	4	7	6	電燈は殖えた 瓦斯は需要少し

No.	紙名	西暦	元号	年	月	日	見出し
100	高田新聞	1915	大正	4	8	2	旱害頻々（板倉村山間部、上江用水流末、西頸地方、字民殺到、不穩の形勢）
101	高田新聞	1915	大正	4	8	24	松代電気社工事
102	高田新聞	1915	大正	4	9	17	図書館夜間会館（高田図書館）
103	高田新聞	1915	大正	4	11	10	即位大礼
104	高田新聞	1915	大正	4	11	12	市中の新装（奉祝風景）
105	高田新聞	1915	大正	4	11	14	高田の大嘗祭 直町の大嘗祭
106	高田新聞(第三)	1916	大正	5	1	1	(高田新聞)大典記念事業 青年団表彰
107	高田新聞	1916	大正	5	1	14	中頸男子人口（舞鶴海軍人事部の依頼により中頸城郡役所が調査）
108	高田新聞	1916	大正	5	2	20	衛戍地の変更 新定以外は散歩区域
109	高田新聞	1916	大正	5	4	14	幼年校入学試験（第十三師団陸軍幼年学校）
110	高田新聞	1916	大正	5	5	22	市教育会総会（貧困児童の救済決議）中頸城郡教育会（同じく貧困児童の救済決議）
111	高田新聞	1916	大正	5	5	29	(高橋文質没後一周年追悼特集)
112	高田新聞	1916	大正	5	6	1	師団購買標準価（第十三師団経理部糧食品購買価格標準）
113	高田新聞	1916	大正	5	7	9	悪徳新聞予審終結（越後新聞＝高田新報の後身）
114	高田新聞	1916	大正	5	7	11	榊原家の御家騒動 老子爵とご養子の不和 家宝売却の九万二千元
115	高田新聞	1916	大正	5	7	12	危険なる新聞紙（越後新聞） 御家騒動と云ふ筋にはあらず 宮川小一郎氏談
116	高田新聞	1916	大正	5	9	7	柿崎電話竣工期
117	高田新聞	1916	大正	5	10	28	瓦斯需要増加（高田瓦斯株式会社）
118	高田新聞	1916	大正	5	10	31	煙草耕作段別（大正六年耕作種類段別）
119	高田新聞	1916	大正	5	11	2	馬匹の共同購入
120	高田新聞	1916	大正	5	11	5	万歳の響き 各地の奉祝（立太子）
121	高田新聞	1917	大正	6	2	10	高田市の戸口
122	高田新聞	1917	大正	6	2	14	本県産油状態
123	高田新聞	1917	大正	6	2	28	市内増設電話（加入要件）
124	高田新聞	1917	大正	6	3	4	選挙に対する婦人の希望 与謝野晶子

No.	紙名	西暦	元号	年	月	日	見出し
125	高田新聞	1917	大正	6	3	7	東頸城の戸口 松代に特設電話 安塚にも特設電話
126	高田新聞	1917	大正	6	4	28	全焼十七戸 高田の火災 (西村町)
127	高田新聞	1917	大正	6	8	11	補助増額陳情 (私設軽便鉄道)
128	高田新聞	1917	大正	6	9	2	頸倉株式募集 (頸城倉庫株式会社、頸城軽便鉄道関連)
128	高田新聞	1917	大正	6	9	2	杜氏講習会閉講式 (柿崎酒造組合主催)
							”西村町大火続報”
129	高田新聞	1917	大正	6	9	20	炭が安くなる 両に十貫目 (西頸城の産出量)
130	高田新聞	1917	大正	6	10	3	暴風雨の跡 至る所に損害 山崩れ家を潰す (名立村桂の雨害)
131	高田新聞	1917	大正	6	10	4	児童修学旅行法 (中頸城郡教育会答申)
132	高田新聞	1917	大正	6	10	30	入営壮丁父兄の為に(下) 石川司令官談
133	高田新聞	1918	大正	7	1	28	別院本堂大破 雪崩の為殆ど半壊す 仏様は全部移転
134	高田新聞	1918	大正	7	3	10	婚姻と離婚と 直江津は最多
135	高田日報	1918	大正	7	3	20	哀れな人々の群 盲学校の昨今
136	高田新聞	1918	大正	7	4	3	多額議員は誰 (貴族院多額納税議員の改選)
137	高田新聞	1918	大正	7	4	22	山峡の大家事 焼失十五戸余 (寺野村釜塚)
138	高田新聞	1918	大正	7	6	21	越電会社総会 配当は年一割一分 越電発電所工事
139	高田新聞	1918	大正	7	7	2	信越の水電=九十二万馬力 全国の使用量は百万馬力
140	高田新聞	1918	大正	7	7	5	田端芸期妓の玉調べ
141	高田新聞	1918	大正	7	7	28	遊郭は霜枯れ時 (五分一遊郭)
142	高田新聞	1918	大正	7	7	30	長距離電話 (赤倉と各所の料金)
143	高田新聞	1918	大正	7	8	10	二千の群集尚鎮静せず (滑川町・富山市の米騒動)
144	高田新聞	1918	大正	7	8	13	市富豪の貧民救済策 直江津町の富豪も蹶起 (米騒動関連)
145	高田新聞	1918	大正	7	8	14	各地頻々騒乱の巷 米暴動拡大 直町五銭引 外米廉売 高田でも割引販売
146	高田新聞	1918	大正	7	8	17	廉米も買えぬ 中流の無資産階級・恐怖と苦痛の現状 与謝野晶子女史
							市の白米廉売 細民八千六百五十人に 匿名で二千円を高田氏に寄附
147	高田新聞	1918	大正	7	8	18	暴動依然たり 引続き各地に於て 十七日正午内務省公表

No.	紙名	西暦	元号	年	月	日	見出し
148	高田新聞	1918	大正	7	8	20	三十五銭は高価い モット米商は奮発を要す
149	高田新聞	1918	大正	7	8	21	米騒動は日本全国に亘る 八月三日から半カ月を超え 三府一道三十県に及ぶ
150	高田新聞	1918	大正	7	9	4	成金税を課せらるゝ人 市で五人、郡部で十二人
151	高田新聞	1918	大正	7	9	23	高田新聞主催大競走会
152	高田新聞	1918	大正	7	9	28	瓦斯市営の問題 引続きの市会（瓦斯買収案可決）
153	高田新聞	1918	大正	7	10	7	寿司弁当の売上高は直江津いかや一等
154	高田新聞	1918	大正	7	10	25	上越線起工
155	高田新聞	1918	大正	7	10	26	猛烈な流行感冒 伝染力は第一位 ペストや虎疫より恐ろしい（スペインかぜ）
156	高田新聞	1918	大正	7	11	4	瓦斯長期債 県市意見の相違
157	高田新聞	1918	大正	7	11	18	裁判所工事成らん（高田区裁判所）
158	高田新聞	1918	大正	7	12	9	県下の感冒患者三十一万七千人 死亡者二千三百名
159	高田新聞	1919	大正	8	1	30	両師範募生（高田・新潟師範） 教員不足
160	高田新聞	1919	大正	8	2	14	妙高山麓へ馬籠で（輜重兵第十三大隊）
161	高田新聞	1919	大正	8	3	1	蔬菜模範作（和田・春日・三郷・中郷・新道・潟町村）
162	高田新聞	1919	大正	8	3	15	郡史編纂提唱（中頸城郡）
163	高田新聞	1919	大正	8	3	21	附属小学施設（入学児童保護者の職業の内訳）
164	高田新聞	1919	大正	8	3	22	鉄道延長請願（頸城軽便鉄道、安塚村）
165	高田新聞	1919	大正	8	3	30	点字を指先にまさぐりつ盲生の祝辞朗読、同情せしめた盲校卒業式（高田盲学校第十九回卒業証書授与式）
166	高田新聞	1919	大正	8	3	31	三百年手を付けないお濠の鯉を捕獲の計画
167	高田新聞	1919	大正	8	5	2	天には煙火 地には電燈飾 互いに映発して昼を欺く五分一（招魂祭、遊郭名掲載）
168	高田新聞	1919	大正	8	5	18	西頸城の市振村に天然痘の発生 種痘未済の小児が罹る
169	高田新聞	1919	大正	8	5	20	市振村全村焼失
170	高田新聞	1919	大正	8	6	4	町村決算（中頸城郡各町村歳出入決算）
171	高田新聞	1919	大正	8	6	7	水利組合予算（中頸城郡）
172	高田新聞	1919	大正	8	6	9	市振村罹災者義捐金募集
173	高田新聞	1919	大正	8	6	10	戦艦香取は今日新潟へ 一万六千噸の巨軀を直江津港外に現はすのは十二日の午後二時頃ならんか



No.	紙名	西暦	元号	年	月	日	見出し
174	高田新聞	1919	大正	8	6	14	壮丁体格奨励（徴兵忌避問題）
175	高田新聞	1919	大正	8	6	21	街を野を疾走す 二里六町 高師校のマラソン
176	高田新聞	1919	大正	8	6	29	農家の女子の為に 早暁に学校で授業する 大貫小学校の新しき試み
177	高田新聞	1919	大正	8	6	30	栄えある戦勝を表祝せん表祝せよ 高田市の大祝賀会(第一次世界大戦対独講和条約調印)
178	高田新聞	1919	大正	8	7	1	全市歓楽の海と化せむ（第一次世界大戦対独講和条約調印）
179	高田新聞	1919	大正	8	7	2	国勢調査（調査の概要）
180	越後新聞(夕刊)	1919	大正	8	7	3	越電の電柱現在数
181	高田新聞	1919	大正	8	7	3	大八車で 祇園祭の神輿 町内送りで渡御
182	高田新聞	1919	大正	8	7	6	騰ったのは米計りでない 何でも四五割高 生活も逼迫する訳だ 高田警察署の労働者生活状態調査
183	高田新聞	1919	大正	8	7	9	水利組合基金（基本財産・土地を有す中頸城郡十七組合）
184	高田新聞	1919	大正	8	7	18	全国人口 本県は百九十万人（高田市人口）
185	高田新聞	1919	大正	8	8	5	臨海教育便り（高田師範附属小学校）
186	高田新聞	1919	大正	8	9	17	県紙類生産高
187	高田新聞	1919	大正	8	10	11	子不知隧道崩壊して 海中に突堤 百二十四間海中へ押し出す
188	高田新聞	1919	大正	8	10	12	信越列車の冬支度 雪覆ひの改築やら ラッセルの試運転（ラッセル車の駅別配置）
189	高田新聞	1919	大正	8	11	10	市の芸娼妓数 芸娼七十二娼妓百三十
190	高田新聞	1919	大正	8	11	11	本県明年度予算
191	高田新聞	1919	大正	8	12	25	改正車賃（高田駅・各駅間の鉄道運賃）
192	高田新聞	1920	大正	9	2	10	高田における職業婦人【一】 女工の群(一)
193	高田新聞	1920	大正	9	2	13	高田における職業婦人【三】 女工の群(三)
194	高田新聞	1920	大正	9	3	12	上越と六三と合同条件（新井町上越銀行と長野県六三銀行との合併）
195	高田新聞	1920	大正	9	4	13	選挙や派遣で電報激増 係員は不休で奮闘
196	高田新聞	1920	大正	9	4	18	本県漁業の発達 年を逐って向上の徴候あり
197	高田新聞	1920	大正	9	4	24	植民思想宣伝の為に 唱歌を作成して 全国小学校に配布する（拓殖局）
198	高田新聞	1920	大正	9	4	27	流行性感冒の魔手 櫛池村を襲ふ 東戸野の全大字に亘りて
199	高田新聞	1920	大正	9	5	3	原因は汽車の煤烟から 郷津の火事は 直江津署の調査結果



No.	紙名	西暦	元号	年	月	日	見出し
200	高田新聞	1920	大正	9	5	4	滅切り増した閲覧者 陽気の加減か 去月の高田図書館
201	高田新聞	1920	大正	9	5	5	郵便増加 何でもかでも 昨年より急激に (高田郵便局)
202	高田新聞	1920	大正	9	5	6	他を誣ゆる日報紙 無法なる毒筆呆然たる外なし
203	高田新聞	1920	大正	9	5	12	倉石氏大勝 高田市開票結果 投票数 第十二区の(衆議院議員選挙結果)
204	高田新聞	1920	大正	9	5	14	直江津最寄徴検 (壮丁検査)
205	高田新聞	1920	大正	9	5	15	焼け跡にも春は来る 昨今の鉢崎 弗々と家も建つ
206	高田新聞	1920	大正	9	5	16	漸く晴れたる山王祭 昨年に無き賑ひ 神輿の渡御
207	高田新聞	1920	大正	9	5	19	まだまだ不景気風は当地へは吹き込まぬ 羽が生えて飛ぶ廉売品 失業者も無く花柳界も大繁盛
208	高田新聞	1920	大正	9	5	22	新井徴兵署閉鎖 (検査成績)
209	高田新聞	1920	大正	9	5	28	算術には誰も悩んだ市壮丁 幸に無学者は一人も無い
210	高田新聞	1920	大正	9	5	31	中頸前年決算 (中頸城郡歳入歳出決算)
211	高田新聞	1920	大正	9	6	2	又も汽車の煤煙が鉢崎を焼尽? 急を聴き字民愕然として現場に駆付く 納屋の上に落ちた火の粉
212	高田新聞	1920	大正	9	6	7	日用品 漸次下落す
213	高田新聞	1920	大正	9	6	15	汗だくの折柄 流行の香水は 果たして何々か 市内森平商店調べ
214	高田新聞	1920	大正	9	6	16	駅待合室にデスク備附 手紙や電報を乗客が書くに便宜
215	越後新聞(夕刊)	1920	大正	9	6	20	高田に異彩を放てる高陽館と其設備
216	高田新聞	1920	大正	9	6	29	流感蔓延 全村各戸 殆んど臥床裡 死者続出挿秧出来ず (水原村)
217	高田新聞	1920	大正	9	6	30	小児の死亡 高田多し 気候体育関係
218	高田新聞	1920	大正	9	7	2	拾得の薬莢で学生負傷 放課後に爆発
219	高田新聞	1920	大正	9	7	5	今は想像も付かぬ 賑かな昔の祇園
220	高田新聞	1920	大正	9	7	30	水騒ぎの犠牲者 十名令状執行、三名検束 (諏訪村真砂堰配水問題)
221	高田日報	1920	大正	9	8	2	馬市開場 春日新田
222	高田新聞	1920	大正	9	8	10	盆踊りの取締は寛大 卑猥な唄と服装は慎しめ 野暮な干渉はせぬと警察部長語る
223	高田新聞	1920	大正	9	8	24	水道設計 経費百万円位 (高田市水道敷設)
224	高田新聞	1920	大正	9	8	28	市内電話増設の申込みは形式だけ 一般の者は望みなし 僅かに二三口
225	高田新聞	1920	大正	9	9	3	村長排斥の真因は 水騒ぎに端を発す (上杉村)

No.	紙名	西暦	元号	年	月	日	見出し
226	高田新聞	1920	大正	9	9	21	本紙一万二千号（高田日報の端緒等）
							帝大の理学部から隕石を調査しに助教授と天文台の技師とが来高し櫛池村大字棚田の現場へ出張す
							安塚浦川原間に自動車運転 頸鉄各列車に連絡賃金僅かに四十銭
227	高田新聞	1920	大正	9	10	19	妙齡二十歳を迎えた高女校のお祝ひ
228	高田新聞	1920	大正	9	10	27	東京帝大のスキー団 今冬も大挙して 来高して練習を為すべく
229	高田新聞	1920	大正	9	10	31	高田は廉いか高いか 日用品価の比較 警察で調べた各地との
230	高田新聞	1920	大正	9	11	2	師団遙拝式 各校遙拝式 市民遙拝式（明治神宮遷座）
231	高田新聞	1920	大正	9	12	3	西頸城よりの出稼工女に就て(上)
232	高田新聞	1920	大正	9	12	6	県下を通じて正教員不足 其数実に一千名
233	高田新聞	1920	大正	9	12	21	西頸上早川の山崩れ 田や山林を埋没す 損害二千元余
234	高田新聞	1920	大正	9	12	25	今年の善き日 クリスマス（高田聖公会）
235	高田新聞	1921	大正	10	2	4	水道費陸軍補助 倉石市長近く上京陳情す
236	高田新聞	1921	大正	10	2	27	無線電信の受信も 新設の測候所で（高田測候所新設準備）
237	高田新聞	1921	大正	10	3	7	様々な悲劇を生む入監者とその妻や子（高田分監）
238	高田新聞	1921	大正	10	3	9	金谷山も高田名勝となり駅に掲示される 今回改正と共に
239	高田新聞	1921	大正	10	3	10	新学年の幼稚園は満員 或は抽籤か（高田幼稚園）
240	高田新聞	1921	大正	10	3	11	県下に於ける昨年中の火災
241	高田新聞	1921	大正	10	3	12	東頸現在戸口
242	高田新聞	1921	大正	10	3	16	煙草収納成績（高崎専売支局小出雲出張所管内）
243	高田新聞	1921	大正	10	3	19	農村悪風矯正の為に読書を勧めたい 安藤高田図書館司書語る
244	高田新聞	1921	大正	10	3	23	電信電話の開通（飯田・牧両局）
245	高田新聞	1921	大正	10	3	24	市の昨年の生産額 皮革製品が筆頭 之に並ぶは足袋の十五万円
246	高田新聞	1921	大正	10	3	28	郡制廃止善後策 学校病院等の処分が問題
							識者の研究に値する入獄者とその妻 高田分監には目下五十二名収監
247	高田日報	1921	大正	10	3	30	春日新田私設消防組織 来月三日発会
248	高田新聞	1921	大正	10	4	1	飯田と牧村へ電話が開通 通話料僅かに十銭（高田から）

No.	紙名	西暦	元号	年	月	日	見出し
249	高田新聞	1921	大正	10	4	2	本県下の郡の廃合 高橋本県内務部長談
250	高田新聞	1921	大正	10	4	5	有志奔走して消防組設置 (有田村春日新田)
251	高田新聞	1921	大正	10	4	17	関川分水問題 (中江・上江・参賀用水)
252	高田新聞	1921	大正	10	4	18	オリンピック予選会が高師の校庭に開催さる(県予選会への出場選手)
253	高田新聞	1921	大正	10	4	19	住宅は決して甚しく払底では無いが家賃が高過ぎる 帰還将校の住宅難緩和策に直江津新井を衛戍地に 繰り入れ
254	高田新聞	1921	大正	10	4	20	分水問題を関係者に協議
255	高田新聞	1921	大正	10	4	22	分水問題決着す 多分訴願を起すと無るべし
256	高田新聞	1921	大正	10	4	25	越電の電気展覧会 総ゆる文明の力 初日一万人 二千余点を集めて高田を誇る工芸品 (一市三郡生 産物品評会)
257	高田新聞	1921	大正	10	4	27	連枝は昨日帰山し法主は今日来高 (高田別院で大 谷光演法主が親教)
258	高田新聞	1921	大正	10	4	29	一市三郡品評会審査結果(上)
259	高田新聞	1921	大正	10	4	30	一市三郡品評会審査結果(下)
260	高田新聞	1921	大正	10	5	10	若葉薫ずる初夏の夜 信越楽壇の両才人がピアノに ヴァイオリン独演会 (高陽カルテット主催)
261	高田新聞	1921	大正	10	5	11	開放された電話交換局 自他の為に一覧せよ 一口 の一日使用回数 七十回以上は師団や新聞社
262	高田新聞	1921	大正	10	5	12	難所親不知で鱒が豊漁 西頸城の漁況
263	高田新聞	1921	大正	10	5	13	十六日から開催さるる児童衛展の内容 養育に関す る一切を集めて (県主催児童衛生展覧会)
264	高田新聞	1921	大正	10	5	22	北陸線一部移管 (市振～郷津間が長野運輸事務所 から金沢運輸事務所へ)
265	高田新聞	1921	大正	10	5	27	重要問題に議論沸騰 中頸教育会 国庫負担増加 教育会維持法 春日山の問題 郡長諮問答申
266	高田新聞	1921	大正	10	6	6	市発展と産業 六三銀行支店長談
267	高田新聞	1921	大正	10	6	8	『高田新聞』と『高田日報』を比較して(下)
268	高田新聞	1921	大正	10	6	10	西頸史料の展覧会を開催 (相馬御風ほか)
269	高田新聞	1921	大正	10	6	13	裁判所の窓から見た高田地方の景気は 悲観か楽観 か民事も刑事事件も著しく減少した
270	高田新聞	1921	大正	10	6	14	弗々近づいた氷の季節 盛夏時 一日の需要は三百 貫目位
271	高田新聞	1921	大正	10	6	15	閉鎖日の直町 徴兵署のとりのりの壮丁 輪卒合格を 悲観
272	高田新聞	1921	大正	10	6	16	特産バテンの近時の衰退 原因は何処にある 賃金 の低廉に
273	高田新聞	1921	大正	10	6	19	信越健児の素質優良 身長低下せるも・・・ (第十三 師団管下徴兵検査成績)

No.	紙名	西暦	元号	年	月	日	見出し
274	高田新聞	1921	大正	10	6	20	洋画作品展覧会 高師公孫倶楽部
275	高田新聞	1921	大正	10	6	24	市壮丁の検査成績 昨年に比し良好
276	高田新聞	1921	大正	10	6	25	夏期中に於ける体育は水泳に限る 各校開始 (高田市は昨年荒川に練習場設置)
277	高田新聞	1921	大正	10	6	26	正條植の格子形定規 発明者を追彰す (春日村藤新田村田清治)
278	高田新聞	1921	大正	10	7	6	瓦斯部の内職 炭団の製造 原料が不足で製造を中止か
279	高田新聞	1921	大正	10	7	10	増村氏を会長に 県教育会が満場一致にて 同市果たして受諾するや否や (有恒学舎 増村度次)
280	高田新聞	1921	大正	10	7	21	海水浴行きの小児の為め 回数乗車券発行 割引二割強
281	高田新聞(朝刊)	1921	大正	10	8	1	【日刊から朝刊・夕刊に】
282	高田新聞(夕刊)	1921	大正	10	8	1	未だ解決に至らざる諏訪村用水問題 江上の関係者は語りて云ふ モウ是以上は譲られぬと
283	高田新聞(朝刊)	1921	大正	10	8	2	地方問題の考察(上) 府県合併
284	高田新聞(夕刊)	1921	大正	10	8	2	菅原神社の古墳を調査 宮内省属出張
285	高田新聞(朝刊)	1921	大正	10	8	4	春日新田馬市 千頭に達し 相場は二割高 売行も好況
286	高田新聞(夕刊)	1921	大正	10	8	4	下黒川村紛擾 平和に近く
287	高田新聞(夕刊)	1921	大正	10	8	5	来る十四日の夜に東宮御渡欧活写 上越では糸魚川と高田に 入場料は一切徴収せられず
288	高田新聞(夕刊)	1921	大正	10	8	10	高田日報社の五千号の記念
289	高田新聞(夕刊)	1921	大正	10	8	11	漸く繁盛する市内自動車 人力業者反感 荷馬車と喧嘩
290	高田新聞(朝刊)	1921	大正	10	8	12	木の香新しく匂ふ脇野田駅の前途 乗降客の予想と輸出入額 愈々此の十五日に開通
291	高田新聞(朝刊)	1921	大正	10	9	2	神楽の音爽やかに市制施行記念祭 (高田市制十周年)
292	高田新聞(夕刊)	1921	大正	10	9	2	冴えた織手の撥捌き 舞ふや田端の粋
293	高田新聞(朝刊)	1921	大正	10	9	3	教員検定試験受験者尠し 成績も良らず
294	高田新聞(夕刊)	1921	大正	10	9	3	高田市会は満場一致 奉祝文を可決す (東宮帰朝)
295	高田新聞(朝刊)	1921	大正	10	9	4	市の南北双方から市役所へ火の波 公募の市歌を高唱して
296	高田新聞(朝刊)	1921	大正	10	10	26	頸城鉄道の運転休止列車 来月一日より
297	高田新聞(朝刊)	1921	大正	10	10	27	前景気旺んな舞台開き 新設新井劇場 市村座一行で
298	高田新聞(朝刊)	1921	大正	10	11	5	原首相怪刀に倒る 犯人日比谷に於て捕縛さる (原敬首相暗殺速報)
299	高田新聞(夕刊)	1921	大正	10	12	8	新設の頸城電気会社発電所崩壊さる (榎池村奈良尾地内)

No.	紙名	西暦	元号	年	月	日	見出し
300	高田新聞(夕刊)	1921	大正	10	12	16	民間飛行家藤縄氏墜死 津田沼沖合にて海中へ墜落 (潟町村出身、藤縄英一)
301	高田新聞(朝刊)	1921	大正	10	12	21	室病歇まず 高土村に続出 看護から移入 (腸チフス)
302	高田新聞(夕刊)	1921	大正	10	12	27	スキーの製作五六千台 特産の品の声価を墮さざる様当業者は御注意 随分競争者も出て来た
303	高田新聞(朝刊)	1921	大正	10	12	29	全国小作団体 (内務省調査結果)
304	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	1	24	埋没の列車を発掘 構内を除雪する
305	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	1	25	降雪未だ歇まず 国境は積雪に丈 更に兵力の出動となり 鉄道沿線の除雪に努む
306	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	1	26	積雪汽車を沮む事 既に四昼夜に達す 実に信越線未曾有の事 果して何時迄続くか
307	高田新聞(夕刊)	1922	大正	11	1	26	此の長期間の不通 信越線創始以来 未曾有の出来事なり 四五日間は開通見込立たず
308	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	1	27	開通見込立たず 風雪は稍穏かなるも 国境の積雪は山の如し 自然の威力に人力及ばず
309	高田新聞(夕刊)	1922	大正	11	1	27	降る降る雪は 汽車は矢張り不通 鉄道各方面よりの来援も多数在郷軍人の出動も 自然の暴威には叶はず
310	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	1	28	高田師範の生徒達 八十人宛交代で 八百二十余坪の校舎屋上の雪卸しに気張る
311	高田新聞(夕刊)	1922	大正	11	1	28	遂に師団の全員 鉄道側の懇囑によりて除雪の為に 出動
312	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	1	30	積雪の重さに堪えず家屋の倒壊頻々
313	高田新聞(夕刊)	1922	大正	11	1	30	信越の健児が熱烈な社会奉仕の作業に自然の猛威も屈し不通区間の除雪全く成る 本日中に開通の意
314	高田新聞(夕刊)	1922	大正	11	1	31	二月一日から理管料値上 市内五銭づつ (高田理髪組合、理髪料金改定)
315	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	2	1	越後電気株式会社広告 (一月三十一日～二月十日までの電気料金を無料に)
316	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	2	2	十四日間に亘る大風雪 列車不通で高田は孤立
317	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	2	6	雪崩に死傷した遭難者へ義捐金募集
318	高田新聞(夕刊)	1922	大正	11	2	6	鉄道惨事の新記録 (北陸線勝山トンネル前雪崩事故)
319	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	2	7	大惨事の責任は鉄道院側にもある (北陸線勝山トンネル前雪崩事故)
320	高田新聞(夕刊)	1922	大正	11	2	7	不慮の大雪崩に惨死実に九十名 死体の未発見は一名、負傷者の合計は三十五名 (北陸線雪崩事故)
321	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	2	8	高田病院前途 財団法人を組織するより市に寄附有利
322	高田新聞(夕刊)	1922	大正	11	2	8	一名に弔慰金千円づつを贈呈に決定す 鉄道省より (北陸線雪崩事故)
323	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	2	9	信越線に愈々急行列車を 三月十五日より一列車を増発
324	高田新聞(夕刊)	1922	大正	11	2	9	高田市予算内容 前年度に比し七万九千円増加 主として教育費に於て



No.	紙名	西暦	元号	年	月	日	見出し
325	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	2	10	有難き御思召なる御救恤金の伝達 (大正天皇・皇后から北陸線遭難死亡者及び負傷者への御内帑金の下賜)
326	高田新聞(夕刊)	1922	大正	11	2	10	人口が約四百 戸数が百戸 市は増加する
327	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	2	11	遺族と家族と其他参列裡に恭しく御下賜金伝達式
328	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	2	13	列車の中に警官の眼が物凄く光る 十一日より実施
329	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	2	15	大々的の脱線を演じ満場に笑声起る 郡制の廃止を控えたる中頸城郡最後の郡会
330	高田新聞(夕刊)	1922	大正	11	2	16	親不知遭難者九十名の大追悼会営まる 来会者一万人と注され 光景肅然新愁更に加ふ
331	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	2	17	盛儀を極めた遭難者の追悼会 大谷光演師を大導師に百名の僧侶の読経
332	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	2	18	巡查を派し左側通行の宣伝を行ふ 各学校へも
333	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	2	19	近く新築さるべき商工校の敷地争ひ 候補地は既に運動に着手 果たして何処に極るやら
334	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	2	22	昨年の三倍に達す 高師の入学志願 (志願者の郡別内訳)
335	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	2	25	新入児童の家庭に告ぐ(下)
336	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	2	27	大日本スキー会の発会式に兼ね第一回競技大会
337	高田新聞(夕刊)	1922	大正	11	2	27	ニヶ所に亘る地汙り 人家六棟が危険 西頸城の磯部と木浦村 能生谷の山奥にも一ヶ所
338	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	2	28	物価も高く衛生上にも良くない居住地 高田は然うだと師団の調査 (家賃、結核死亡者)
339	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	3	2	中頸移住民 昨年は百六人 (樺太、北海道、朝鮮、台湾、南満州)
340	高田新聞(夕刊)	1922	大正	11	3	18	商工校新築敷地 御新屋敷と馬場先とを 市より目下地主に照会中
341	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	3	19	急行開始後 乗客模様 (信越線、北陸線)
342	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	5	16	創刊四十周年記念号 (直江津町・春日村・有田村・谷浜村の沿革掲載)
343	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	5	21	灌漑期が来るので結局は和解せん (金谷村と和田村の水騒擾事件)
344	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	5	22	四十年前高田新聞創始時代に於ける世態人情と私の生活
345	高田新聞(夕刊)	1922	大正	11	5	25	(高田・柿崎)両病院と春日山公園の法人組織の機関 六月中には認可さるべく七月中には全部完成せん
346	高田新聞(夕刊)	1922	大正	11	5	31	烈風裡に突如出火し紅焰十七戸を焼く 水利不便なる津有村荒屋にて
347	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	6	1	放火説は否認され風呂場の残火の不始末が真の原因… (津有村大字荒屋の大火)
348	高田新聞(夕刊)	1922	大正	11	6	5	明治大帝御巡幸地の御旧跡を調査に帝室史料編纂局の藤沢子爵 近く来越新井を筆頭に
349	高田新聞(夕刊)	1922	大正	11	6	8	移出さるる鯖 十噸の貨車 一日に五両宛 近来なき大漁
350	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	7	8	近来多ほくなつた妻から亭主への訴訟 (高田区裁判所民事法廷)



No.	紙名	西暦	元号	年	月	日	見出し
351	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	7	15	親不知附近で機関車転覆す 崩壊した土砂に乗り上げて 負傷者は機関助手一名
352	高田新聞(夕刊)	1922	大正	11	9	11	県下教員俸給額 平均1ヶ月五十九円五十銭 刈羽が最高で南蒲は二位
353	高田新聞(夕刊)	1922	大正	11	10	2	商工学校と図書館の県営移管は結局実現不能か 併し市当局は再度出県して太田知事に陳情する筈
354	高田新聞(夕刊)	1922	大正	11	11	8	親不知の雪覆 本年全部竣工
355	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	11	27	風紀を紊乱しまいかと各警察では予防 帰郷が近づいた出稼工女達 懐ろ金も少ないが万一を慮って
356	高田新聞(夕刊)	1922	大正	11	11	29	明朝直江津に着 句佛(大谷光演)上人の日程
357	高田新聞(夕刊)	1922	大正	11	12	11	金谷スキー場 整理と設備 コースの修繕 チャンプ台も
358	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	12	13	市内小学校の卒業生徒数 其の志望別
359	高田新聞(夕刊)	1922	大正	11	12	14	直江津署出願募集員は増加 競争は激甚か (工女募集)
360	高田新聞(朝刊)	1922	大正	11	12	15	市の貧困児童達の特別教授は不振 其の家庭が家庭だから 当局者の苦心も徹底せない
361	高田新聞(夕刊)	1922	大正	11	12	16	二日の売初めには煙火合図で開店 其他銀行越電へ交渉の件を協定した有力者区長連合会
362	高田新聞(夕刊)	1922	大正	11	12	19	直江津町新年売出し 具体案決定
363	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	1	18	和田校の焼失は残火の不始末か 校長の熟酔云々は全く誤伝と郡視学語る (和田村立第一尋常小学校)
364	高田新聞(夕刊)	1923	大正	12	1	22	赤十字社員数 (県内郡市別特別社員数及び正社員数)
365	高田新聞(夕刊)	1923	大正	12	1	30	市青年会の主催で兔狩りを来月十五日灰塚で催す
366	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	2	3	柿崎地の出稼金高五万円
367	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	2	6	直江津署管内今年の宿泊
368	高田新聞(夕刊)	1923	大正	12	2	7	水道敷設費に対する国県の補助金額と陸軍側の分担金額 市の人口異動 戸数は八十一戸増えたが人口は三万以下に落ちた
369	高田新聞(夕刊)	1923	大正	12	2	10	市内の街路雪割り 二十日から二十八日の間に施行
370	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	3	10	村会一致で不信任を決議 (横尾吉為安塚村長)
371	高田新聞(夕刊)	1923	大正	12	3	28	柿崎村に女子実補学校 新年度から (柿崎裁縫専修学校→村立女子実業補習学校の設置)
372	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	4	5	当局がさばけて師団のさくら 徹底的に開放される 仮装も鯨飲もお関ひなし
373	高田新聞(夕刊)	1923	大正	12	4	5	隔離病舎を合併して施設改善の協議 高田市外十八個町村が来る九日郡衙に集会
374	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	4	6	(稲荷)中江用水組合 揚水機買収の祝賀会開催 来月十日に
375	高田新聞(夕刊)	1923	大正	12	4	6	上越の文化促進の為め 高田読書会の新しき活動

No.	紙名	西暦	元号	年	月	日	見出し
376	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	4	7	父兄の職業別から見た市小学生の成績 軍人教員の子供が良く 齧歯は下層の子供に多ほい
377	高田新聞(夕刊)	1923	大正	12	4	7	遊覧季節になって 車中は鮎詰めめの状 乗客は比較的閑散の列車を利用するのが便利だ
378	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	4	8	発動機漁船が頸北沿海を荒らす 沿岸村長及組合長より之が取締方を郡に陳情
379	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	4	9	直江津の釈尊降誕花まつり 礼賛の歌も厳かに 旗行列は各町を練り歩く
380	高田新聞(夕刊)	1923	大正	12	4	14	児童農耕機を各村で試運転して当業者の実地見学に供す
381	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	4	17	和田村の学校問題 解決とは触出しのみ 真相を指摘して見れば・・・ 焼失校は当然再建すべし
382	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	4	25	今年の中等入学状況 半数の不合格者 師範は昨年より競争激化 中学は収容卒を増した・・・
383	高田新聞(夕刊)	1923	大正	12	5	9	輜重隊に赤痢病発生して隊内は大混雑
384	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	5	10	三ヶ村水利組合会 再招集 予算を決定す (和田村三ヶ村普通水利組合)
385	高田新聞(夕刊)	1923	大正	12	5	16	高中校創立五十年賀式 (高田中学校創立五十周年)
386	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	5	17	県立高中の時代 (高田中学校創立五十周年)
387	高田新聞(夕刊)	1923	大正	12	5	19	松之山温泉も雪が融けた 十七日から自動車開通
388	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	5	27	士族の子孫 (高田日報からの引用記事)
389	高田新聞(夕刊)	1923	大正	12	7	13	車夫対市街自動車の紛糾は事無く鎮静 関係者取調中
390	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	7	15	沖合荷役休業 (直江津町脩会社、祇園祭により)
391	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	8	16	新記録続出した郡選手決定競技
392	高田新聞(夕刊)	1923	大正	12	8	30	柏原附近の急勾配で又も列車が立往生す
393	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	9	3	大地震にて東京市全滅 (関東大震災速報)
394	高田新聞(夕刊)	1923	大正	12	9	3	二日間一食一睡もせず 親子三人 高田に逃帰る (関東大震災特集)
395	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	9	4	高田師団の出動 歩兵一個旅団と工兵大隊 東京に向かって本日出発 (関東大震災特集)
396	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	9	5	(東京から)無事で帰った市長 俄然鮮人爆弾を携帯して高田に向ふと上よ下への大騒ぎ (関東大震災特集)
397	高田新聞(夕刊)	1923	大正	12	9	5	直江津署の朝鮮人取調べ 何れも疑はしき者なし (関東大震災特集)
398	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	9	6	列車中の避難民 嬰兒は飢えて泣き 困憊せる母親は途方に暮れる 高田駅救護班の懇ろな慰撫
399	高田新聞(夕刊)	1923	大正	12	9	6	災害地より 特派員第一信
400	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	9	7	市の被災者 続々帰高
401	高田新聞(夕刊)	1923	大正	12	9	7	流言蜚言取締令 暴利取締令 発布

No.	紙名	西暦	元号	年	月	日	見出し
402	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	9	8	大阪遷都は虚説
403	高田新聞(夕刊)	1923	大正	12	9	8	経理部出張所 高田駅構内に (第十三師団経理部による休養品収集輸送)
404	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	9	9	災害地から 特派員第三信
405	新潟毎日新聞	1923	大正	12	9	10	※上越地域の記事記載なし
406	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	9	10	救助金と米の東頸の割当
407	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	9	13	中頸城最近の地価一万円以上の地主 総じて八十名
408	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	9	15	上越在郷軍人救援隊二百余名出発
409	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	9	16	再建へ急ぐ災後の帝都
410	高田新聞(夕刊)	1923	大正	12	9	21	大地震の打撃と上越地方の商業界 某銀行家の談
411	高田新聞(夕刊)	1923	大正	12	9	25	青年会館の震災活動写真 直江津に開催 (日本青年会館講演部主催京浜地方震災実写活動写真会)
412	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	9	26	市の火見櫓竣工 (市消防本部)
413	高田新聞(夕刊)	1923	大正	12	9	27	消息判明の上越罹災者
414	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	9	28	市小学校へ転校児童数 (震災避難)
415	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	11	25	多大の期待を以て待たれた慈善大音楽会はいよいよ今日昼夜大漁座に
416	高田新聞(夕刊)	1923	大正	12	11	26	高田市の避難者 全部にて千余人に上る (全国一斉罹災者調査)
417	高田新聞(夕刊)	1923	大正	12	12	8	野犬撲殺許可 (新井警察分署管内新中町及び鳥坂村)
418	高田新聞(朝刊)	1923	大正	12	12	9	哀れな工女の為確固たる保護組合を作れ 本県の出稼工女数は総数一万八千七百二十一名
419	高田新聞(夕刊)	1923	大正	12	12	11	被災地に於ける米穀配給状況 払下当分継続
420	高田新聞(第一)	1924	大正	13	1	26	御慶典奉祝号 (東宮成婚) 兵隊にとられ困る家 高田管内の
421	高田新聞(第二)	1924	大正	13	1	26	御慶典奉祝号 感ずべき人情味の発露 震災当時示された…… 県社会課に於て調査(一)
422	高田新聞(夕刊)	1924	大正	13	1	26	感ずべき人情味の発露 震災当時示された…… 県社会課に於て調査(二)
423	高田新聞(朝刊)	1924	大正	13	1	28	感ずべき人情味の発露 震災当時示された…… 県社会課に於て調査(三)
424	高田新聞(朝刊)	1924	大正	13	2	18	高田にも小学の入学難 附属小学校の入学
425	高田新聞(夕刊)	1924	大正	13	3	20	大震災当時支那人誤殺の損害三十万円賠償を支那政府要求す (芳澤公使へ)
426	高田新聞(夕刊)	1924	大正	13	4	8	市水道起工式の来賓
427	高田新聞(夕刊)	1924	大正	13	9	16	市の路面改修 今秋の行啓もあり此際徹底に施行

No.	紙名	西暦	元号	年	月	日	見出し
428	高田新聞(朝刊)	1924	大正	13	12	8	西頸の町村合併案に就て 東頸城の村廃合 いざ実行となれば相当の困難が伴はふ
429	高田新聞(朝刊)	1924	大正	13	12	14	難局打開の方策如何 高田市の扱いて■くべき途(師団存廢)
430	高田新聞(朝刊)	1925	大正	14	3	28	高田師団寂滅の日 遂に来る 他の三個師団と共に村松連隊高田に移転 尚山砲一個連隊転設
431	高田新聞(朝刊)	1925	大正	14	5	1	師団廢止特集 未曾有の難局に直面して 川合高田市長談(上)
432	高田新聞(朝刊)	1925	大正	14	5	2	未曾有の難局に直面して 川合高田市長談(中)
433	高田新聞(朝刊)	1925	大正	14	5	9	岐路に立つ漆器業 盛にしたい既存事業の一
434	高田新聞(朝刊)	1925	大正	14	5	10	奉祝御大婚二十五周年記念式
435	高田新聞(朝刊)	1925	大正	14	5	12	師団の戦利大砲 春日山へ
436	高田新聞(夕刊)	1925	大正	14	5	23	関西地方大地震
437	高田新聞(朝刊)	1925	大正	14	5	24	梶屋敷の海岸で蜚鳥賊の豊漁 富山県の名物が西頸城へうつった
438	高田新聞(朝刊)	1925	大正	14	5	25	山陰震災後報
439	高田新聞(朝刊)	1925	大正	14	9	11	■月余に亘る苦闘の成果 多額選挙全く終了す(貴族議員選挙結果)
440	高田新聞(朝刊)	1925	大正	14	11	2	女工保護組合が女工虐めになる 供給数確定せぬ為め募集費二重の負担
441	高田新聞(夕刊)	1925	大正	14	12	21	お米の販売は市内米穀商へ 高田市地主へ要望(高田市勸業課)
442	高田新聞(朝刊)	1925	大正	14	12	22	鉄道上越西線 期成会の総会 二十四日高田市で
443	高田新聞(朝刊)	1926	大正	15	2	7	(衆議院議員)普通選挙の有権者数 東頸城郡
444	高田新聞(朝刊)	1926	大正	15	2	12	日露交渉の功労者 芳澤氏等の行賞
445	高田日報	1926	大正	15	3	16	出稼ぎ一万余 中頸の十四年中の成績
446	高田新聞(朝刊)	1926	大正	15	3	16	中頸人口と戸数 二十三万人 三万一千戸
447	高田日報	1926	大正	15	3	19	大直江津港計画 十六年度より起工 町当局意気込む
448	高田新聞(夕刊)	1926	大正	15	3	19	非常時のオートバイ 金の出来次第順次に整備する(高田市水道消火栓用ホースの移送)
449	高田新聞(朝刊)	1926	大正	15	3	23	伝書鳩を利用し沖から漁況通信 能生水産校で飼育
450	高田日報	1926	大正	15	3	24	津有村小作争議 円満に解決す 昨日高田支部で調停成立し ※2部あり
451	高田新聞(朝刊)	1926	大正	15	3	27	市内中等校 落第生は九十名 高田中学は旗頭 どんな壮丁がどんな兵科に? 四月十六日から始る徴兵検査の標準
452	高田日報	1926	大正	15	3	28	われらが郷土の誇り 下野田本覚坊の由緒

No.	紙名	西暦	元号	年	月	日	見出し
453	高田新聞(朝刊)	1926	大正	15	3	28	心細い電気会社の合同 県当局では絶望視せず
454	高田日報	1926	大正	15	4	18	選ばれた郷土の誇り 上越代表の十一名勝 名所旧跡投票の成績
455	高田新聞(朝刊)	1926	大正	15	4	21	幾変遷を重ね県下屈指の大郡 中頸城郡役所五十年史(五)
456	高田新聞(朝刊)	1926	大正	15	5	21	前島記念 池部郵便局けふぞ開庁式 朝野の名士を迎へて 津有村民の歓喜
457	高田新聞(夕刊)	1926	大正	15	5	24	高田自動車会社重役会 (高田～春日山～五智～直江津間運行の計画)
458	高田新聞(朝刊)	1926	大正	15	5	25	西頸城の漁場紛争 真相未だゴタゴタ
459	高田新聞(夕刊)	1926	大正	15	5	25	北海道十勝嶽 硫黄山二十四日大噴火
460	高田新聞(朝刊)	1926	大正	15	5	26	十勝嶽爆破詳細
461	高田新聞(朝刊)	1926	大正	15	5	27	これを最後の郡市長会議 県農会楼上に開会
462	高田新聞(夕刊)	1926	大正	15	5	27	水道通水を祝して若槻首相の揮毫 兵営跡処分は今秋か 割史的な最後の郡長会議 川合市長帰庁談
463	高田新聞(朝刊)	1926	大正	15	6	11	祝一万四千号
464	高田新聞(夕刊)	1926	大正	15	7	28	栃尾町大出水 家屋多数流出す (刈谷田川・西谷川)
465	高田新聞(朝刊)	1926	大正	15	7	29	市内某工場の職工いきり立つ 工場法を無視した十二時間労働に
466	高田新聞(朝刊)	1926	大正	15	7	30	流出三十二橋 数え難き堤防缺壊 守門嶽を中心の中下越地方大洪水
467	高田新聞(夕刊)	1926	大正	15	8	14	高田市の木炭界 商人は今買入
468	高田日報	1927	昭和	2	10	31	ピアノ披露音楽会 天野原校で
469	高田時事新聞	1930	昭和	5	10	11	町村自治発展策 (吉木小学校長、下保倉村長、春日新田小学校長)
470	新潟読売	1937	昭和	12	6	26	前島記念館を名所に! (長野運輸事務所に津有村が陳情)
471	東京朝日新聞新潟版	1937	昭和	12	8	25	赤倉温泉紛争解決 三つの条件で
472	東京朝日新聞新潟版	1937	昭和	12	8	27	高田市の要望 時局緊迫でペシヤンコ (農学校改築、直江津港改修)
473	新潟読売	1937	昭和	12	9	2	まだ払はぬ 大和組工場 (西頸城郡出稼ぎ女工への賃金未払い問題)
474	新潟読売	1937	昭和	12	9	3	高田隊の犒軍会(こうぐんかい)
475	新潟読売	1937	昭和	12	9	11	面前で指を切り篤志看護婦志願 高田連隊区を訪れた軍国女性
476	新潟読売	1937	昭和	12	9	12	前島男の生地へ郵便博物館分館 津有村へ嬉しい内報
477	新潟読売	1937	昭和	12	9	14	無謀な地主 (中頸城郡吉川村、出征軍人への餞別贈呈・出征旗調製を巡って地主と小作人側が紛糾)
478	新潟読売	1937	昭和	12	9	15	暴利商人膺懲 高田署でリスト



No.	紙名	西暦	元号	年	月	日	見出し
479	新潟読売	1937	昭和	12	9	16	決議は持越し高田管下雪害税減免問題
480	新潟読売	1937	昭和	12	9	17	沿線に”飛躍”呼ぶ四国道の改修 県から本省へ報告 (国道十一号線 長野一直江津間を含む)
481	新潟読売	1937	昭和	12	9	18	部隊長情けの命令 ”病妻と乳児の処置講じて来い” 応ま召兵を繞る美談 (中頸城郡上杉村)
482	新潟読売	1937	昭和	12	9	19	中等学校選抜方法 校長会議に県の方針を発表
483	高田日報(夕刊)	1937	昭和	12	9	20	御風氏新作”利鎌の光”近くAKから放送
484	新潟読売	1937	昭和	12	9	21	時局認識の徹底へ邁進 (高田連隊司令部による支那事変時局懇談会)
485	新潟読売	1937	昭和	12	9	22	結局増税か 五万円歳入減の高田市予算
486	新潟読売	1937	昭和	12	9	23	天然ガスを利用 日本ステンレス直江津工場
487	新潟読売	1937	昭和	12	9	26	備荒貯蓄の実施要項 (中頸城郡農会)
488	新潟読売	1937	昭和	12	9	28	高田商議改選形勢全く混沌
489	新潟読売	1937	昭和	12	9	29	二市三町防空査閲 一日から三日間執行 (高田市、直江津町)
490	新潟読売	1937	昭和	12	9	30	どたん場で決戦へ あすに迫る 高田商議改選
491	新潟読売	1937	昭和	12	10	1	直江津農商の農科存続運動
492	新潟読売	1937	昭和	12	10	2	ステンレス加工場基礎工作 (高田市)
493	新潟読売	1937	昭和	12	10	3	”新会頭に丸山氏を” 市長さん乗り出す 改選その後に来るもの 高田商議の対立解消へ
494	新潟読売	1937	昭和	12	10	5	県下第一! 防空査閲・高田は予想外の好績
495	新潟読売	1937	昭和	12	10	6	馬耳東風の本省へ 両派最後の突撃戦 競り合ふ上越西線起点
496	新潟読売	1937	昭和	12	10	8	決戦一步手前で丸山氏に譲る? 高田会頭問題 石黒氏乗り出す
497	新潟読売	1937	昭和	12	10	13	会頭は丸山氏 副会頭に中川氏 高田商議役員漸く決る
498	新潟読売	1937	昭和	12	10	16	駅頭・鮮血の激励 名香山村に劇的佳篇
499	新潟読売	1937	昭和	12	10	21	中澤先生から硝煙の便り 高田中学へ
500	新潟読売	1937	昭和	12	10	24	小作料引下愈よ必至 地主の負担半減 補給金と賃貸価改訂の波紋
501	新潟読売	1937	昭和	12	10	26	護岸壁完成 (信越線鉢崎・青海川駅間)
502	新潟読売	1937	昭和	12	10	27	理研工場の誘致 実現へ一步前進 大河内子から好意ある回答 (理研高田工場)
503	新潟読売	1937	昭和	12	10	28	散華に薫る人格 公務・家庭の一切を整理して後顧を払ふその出陣 あゝ村山教頭
504	新潟読売	1937	昭和	12	10	31	ステンレス操業開始 十一月実現 (高田ステンレス加工工場)



No.	紙名	西暦	元号	年	月	日	見出し
505	新潟読売	1937	昭和	12	11	1	※上越地域の記事記載なし
506	高田毎日新聞(号外)	1937	昭和	12	11	3	倉林・猪鹿倉両部隊 護国の人柱 三日原隊から発表
507	新潟読売	1937	昭和	12	11	4	※上越地域の記事記載なし
508	新潟読売	1937	昭和	12	11	7	太原遂に我手へ 先鋒北門到着の快報 上越山河・祝賀に沸く
509	新潟読売	1937	昭和	12	11	9	稲の落穂集め 米八斗 (明治村修斎尋常小学校)
510	新潟読売	1937	昭和	12	11	10	護れ祖国の空 警戒管制の徹底に重点 十六日から八日間 三市一町で挙行 (防空演習)
511	新潟読売	1937	昭和	12	11	13	高田市火の海 太原陥落に挙る歓声 (祝勝提灯行列)
512	新潟読売	1937	昭和	12	11	16	天然ガスを使用 高田市・実現愈よ確実
513	高田日報(夕刊)	1937	昭和	12	11	17	お祭気分を排し花を観る丈にする 非常時下、明春の高田観桜会
514	新潟読売	1937	昭和	12	11	17	高田スキーの全国制覇 (仙台逡信局へスキー発送)
515	新潟読売	1937	昭和	12	11	18	ハリきる高田市 今度こそ”甲” 灯火管制は好成績
516	新潟読売	1937	昭和	12	11	19	妙高の陸軍療養所 愈よ正式決定 十九日正式に調印
517	新潟読売	1937	昭和	12	11	21	藁工品を奨励 中頸城郡農会
518	新潟読売	1937	昭和	12	12	1	銃後の活躍 高田市軍人後援連合会
519	高田日報(夕刊)	1937	昭和	12	12	8	記念撮影の家族写真を出征兵士におくる 和田村大和の祈願祭と慰安会
520	新潟読売	1937	昭和	12	12	8	地元スキーヤーの養成 高田スキー大学の転向
521	新潟読売	1937	昭和	12	12	12	妙高陸軍療養所 軍側の現地視察で意外の不評 果然悲観説台頭す
522	新潟読売	1937	昭和	12	12	15	俺の親分が内相に 懸案の諸問題ぜひやって貰ふ ニコニコの江坂市長
523	高田日報(夕刊)	1937	昭和	12	12	27	中電は冷静 電力国家管理問題に
524	新潟読売	1938	昭和	13	5	15	雪の惨禍に驚いた 高田で湯地(大蔵省)事務官語る
525	新潟読売	1938	昭和	13	5	18	信越両国を結ぶ真那板山隧道 二十三日小滝村で貫通式
526	新潟読売	1938	昭和	13	5	20	深夜に”コラ待てッ” 誰何されたのは六百五十七名 県下の一斉防犯検索
527	新潟読売	1938	昭和	13	5	21	旗の波だ灯の海だ ”徐州陥落”を祝ふ二百万県民 銃後の護り忘れず
528	新潟読売	1938	昭和	13	5	22	森林雪害百万円 中頸だけでこの巨額
529	新潟読売	1938	昭和	13	7	7	※上越地域の記事記載なし
530	新潟読売	1938	昭和	13	8	16	高田市水道また断水

No.	紙名	西暦	元号	年	月	日	見出し
531	夕刊新潟読売	1938	昭和	13	10	7	※上越地域の記事記載なし
532	夕刊新潟読売	1938	昭和	13	10	13	人命救助四十件 直江津水上署の岩島氏逝去
533	新潟読売	1938	昭和	13	10	23	追憶の涙も新た 支那事変戦没勇士大慰霊祭
534	新潟読売	1938	昭和	13	10	26	※上越地域の記事記載なし
535	新潟読売	1938	昭和	13	10	29	軍都に勇む武装行進 とどけ軍靴の響、漢口へ
536	高田日報(夕刊)	1938	昭和	13	11	9	出稼ぎよりも利益の飯田川改修工事労働 一月中でも雪を割って行ふ
537	新潟読売	1938	昭和	13	11	13	愈よ今夜”高田”で 新時代の獅子吼 聴け待望の本社主催大講演会 (漢口陥落祝勝)
538	夕刊新潟読売	1938	昭和	13	11	19	直江津万全の準備 (灯火管制)
539	夕刊新潟読売	1938	昭和	13	12	2	※上越地域の記事記載なし
540	夕刊新潟読売	1938	昭和	13	12	4	※上越地域の記事記載なし
541	高田日報(夕刊)	1938	昭和	13	12	29	白魔急襲に上越地方 早くも雪地獄を現出! 鉄道ダイヤは潰滅の惨状で 年の瀬”足”を奪はれ大打撃
542	夕刊新潟読売	1938	昭和	13	12	29	街に喜びを撒く 号外奪ひ合ひ 高田市忽ち灯の海
543	新潟読売	1939	昭和	14	1	6	またも猛吹雪 風速二十五メートル なお数日続く大荒れ 信越国境で列車立往生
544	高田日報(夕刊)	1939	昭和	14	3	17	本紙連載『本願寺籠城』にゆかりの法宝物 林西寺で内拝展覧会を開く 吉崎本覚坊所蔵
545	高田日報(夕刊)	1939	昭和	14	3	23	春日村宮野一号井 少量の出油を見る 第二号井掘鑿にも着手
546	高田日報(夕刊)	1939	昭和	14	3	24	高田市警防団編成 本部と四分団に決定 団員八百五十五名
547	高田日報(夕刊)	1939	昭和	14	3	26	桜と共に上越には 酒男インフレ景気! ザッと三十三万円 出稼地から持ち帰る (高田税務署管内)
548	新潟読売	1939	昭和	14	5	27	母国の日本観是正へ 高田のパウルスさん 近く帰国
549	新潟読売	1939	昭和	14	6	11	新道と高田の合併提唱か 裏作試験場設置を機に
550	高田日報(夕刊)	1939	昭和	14	10	7	生産者は売急がず 焦せる各地の米穀問屋 柿崎地方に入込み諸費用負担の条件つきで買い漁る
551	高田日報(夕刊)	1939	昭和	14	10	11	浄興寺の生きる途 本願寺との間に立つて口を聞いてもよい 優遇さす 嘗て関与せる安藤元文部政務次官来高して独立不可を説く
552	高田日報(夕刊)	1939	昭和	14	10	16	護国神社運動 元外相らの援助を得て貫徹へ 内務当局を動かす外なく 中川同盟会長近く上京
553	高田日報(夕刊)	1939	昭和	14	10	29	石炭節約で—今冬各駅待合室は寒さを我慢して下さい 但し木炭又は薪の代用を 新鉄局に於て考慮中
554	高田日報(夕刊)	1939	昭和	14	10	30	全国に気を吐く”農機の上越” 大島、篠宮と共に新井町の吉村製作所の飛躍めざまし
555	新潟読売	1939	昭和	14	12	29	七転八倒の罌堂翁 池の平で”スキーは儘にならぬ喃”
556	高田日報(夕刊)	1939	昭和	14	12	29	お正月の家庭必需品 相変わらずの高値デス

No.	紙名	西暦	元号	年	月	日	見出し
557	高田日報(夕刊)	1940	昭和	15	1	25	豪雪に奪われた旅客 ダイヤ完全に停止! 夜半来 海岸線稀有の猛吹雪で 至る処、列車立往生
558	新潟読売	1940	昭和	15	2	17	中電の合併移転 けふ株主総会后弁明 瀬黒専務ら を迎へ有志懇談会
559	新潟読売	1940	昭和	15	2	29	三月か四月 市会協議会 高田の近村合併
560	新潟読売	1940	昭和	15	3	1	ボロイぞ賠償二万七千円 (青海電化工場の山手料 支払い)
561	新潟読売	1940	昭和	15	4	9	高田市の愛馬行進
562	新潟読売	1940	昭和	15	4	10	昨年の五割増 高田のスキー売行
563	新潟読売	1940	昭和	15	5	5	協力は惜まぬが時局産業も重大 日曹二本木工場側 の弁 (工場労働者の帰農問題)
564	新潟読売	1940	昭和	15	5	11	雪害は予想以上 (高田市勸業課調べ)
565	高田日報(夕刊)	1940	昭和	15	5	13	郵便局窓口へ、銀行へ— 大衆・物凄い殺到ぶり け ふ売り出された壱萬円割増付き報国債券の素晴らしい人気
566	新潟読売	1940	昭和	15	5	14	定款問題で波紋 (新潟県スキー工業組合創立総 会)
567	新潟読売	1940	昭和	15	5	17	歌外波大火原因 鉄道省側も調査
568	高田日報(夕刊)	1940	昭和	15	5	21	直江津港拡築に積極的援助 長野県の土木部長が 本県を訪れ諸懸案に協力約す
569	新潟読売	1940	昭和	15	5	22	炭焼手解き 愈々高田で開始
570	高田日報(夕刊)	1940	昭和	15	5	22	護国神社・遂に新潟へ 三年越し運動も水泡! 一 市八郡地方民の熱望も空しく消えて落胆 ”高田建 設”を叫ぶ原因の一つが解消して
571	新潟読売	1940	昭和	15	5	24	烈風中・各地で火魔跳梁 妙高では約百町歩
572	高田日報(夕刊)	1940	昭和	15	5	29	新しき土への集合開拓団 先駆の誉を担って 中頸 源村分村の先発隊 あす希望の船出をなす(満州分 村)
573	高田日報(夕刊)	1940	昭和	15	6	6	直江津港拡築計画 地元の熱望する左岸利用に暗 影 実現至難との丹羽博士の意見に県が原案を再検 討
574	高田日報(夕刊)	1940	昭和	15	6	25	大高田市建設へ! 三村・直江津を包含する計画に 愈々乗り出す 市勢調査委員会 市長案に賛同
575	高田日報(夕刊)	1940	昭和	15	6	28	切符より理想的な通帳制度を案出 下黒川信組が砂 糖の配給に
576	新潟読売	1940	昭和	15	7	1	旗・花火・けふの喜び 新生柏崎市・光輝あれ
577	高田日報(夕刊)	1940	昭和	15	7	3	防空訓練と祇園祭 祭礼提灯と照明燈に特別の取り 計らひ 祭典委員会の陳情で
578	新潟読売	1940	昭和	15	7	4	高田で軍楽隊演奏会 (軍艦大龍寄港)
579	高田日報(夕刊)	1940	昭和	15	7	6	緊張新たにし時難克服に邁進せん 高田市長 中川 潤治 (支那事変勃発三周年)
580	高田日報(夕刊)	1940	昭和	15	7	8	レルヒ伝の好資料 ”高田の思い出” 將軍の親書に 先立ち独逸大使館を通じて到着
581	高田日報(夕刊)	1940	昭和	15	7	9	市に配給される木炭七百俵(家庭用) 配給基準(算 式)決定

No.	紙名	西暦	元号	年	月	日	見出し
582	新潟読売	1940	昭和	15	7	14	高田に有利か 護国神社問題
583	高田日報(夕刊)	1940	昭和	15	7	18	高田駅に防空壕 一般の見学を希望
584	高田日報(夕刊)	1940	昭和	15	7	23	大谷学院夏期学校 本山の経費削減・縮小方針を聞き高田仏教学院が対策
585	新潟読売	1940	昭和	15	7	24	連合販売店 高田文房具商組で計画
586	高田日報(夕刊)	1940	昭和	15	7	29	勤労精神の涵養と団体的訓練施す 夏季休暇中学童に(柿崎理研工場が) 然も手当の他に衣服・履物迄支給
587	新潟読売	1940	昭和	15	8	3	狙ひは安くて新鮮「市」に見る買出し合戦 高田・夜店のお値段 春日新田の馬市 我らの代表敗る 中等野球信越大会(高田商工出場)
588	高田日報(夕刊)	1940	昭和	15	8	17	年内に予定戸数に達するは確実 大陸開拓の鉄振ふ”源村分郷”
589	新潟読売	1940	昭和	15	8	20	まづ直江津合併 更に春日、新道、金谷に呼び掛け高田市会で対策協議
590	新潟読売	1940	昭和	15	8	23	輝く三十四年の歴史 廃止される高田連隊区
591	高田日報(夕刊)	1940	昭和	15	8	24	合併問題につき直町明日協議会
592	新潟読売	1940	昭和	15	9	13	高田大都市圏の素描 ”富める村”新道 物資集散地として発展
593	高田日報(夕刊)	1940	昭和	15	9	17	あす満州事変九周年 軍都多彩な催し 詔書奉読後 忠魂碑・陸軍墓地参拝 在高各中小学校
594	高田日報(夕刊)	1940	昭和	15	9	28	歌外波大火へ鉄道・見舞金支出 条件付で五万三千百六十円
595	新潟読売	1940	昭和	15	10	11	東頸縦貫鉄道 実測の快報 予定ルート変更か(上越西線)
596	高田日報(夕刊)	1940	昭和	15	10	30	上越西線実測 東頸城郡内行はる
597	新潟読売	1940	昭和	15	10	31	両会議所が懇談会 ”大高田市”へ側面運動
598	新潟読売	1940	昭和	15	11	2	日産三十石噴油(郷津試験油井)
599	新潟読売	1940	昭和	15	11	12	打振る旗、提灯の波 きのふ県下奉祝に沸く(紀元二千六百年)
600	上越新聞	1940	昭和	15	12	13	お正月の神酒 一戸二合宛の購買券配給 柿崎町種類共同販売所の嬉しい心遣ひ
601	上越新聞	1940	昭和	15	12	16	闇取引に大量罰金 最高は米の四千元
602	上越新聞	1940	昭和	15	12	28	金保有者の愛国心に訴ふ 新春に最後の勸奨 応ぜねば断乎強制買上
603	上越新聞	1941	昭和	16	1	6	増加の一途 高田局における昨年の貯金
604	上越新聞	1941	昭和	16	1	16	北越鉄道実現の運動を強力化 関係者協力の調印纏る
605	上越新聞	1941	昭和	16	1	17	興味ある雪の調べ 高田商工会議所の統計
606	上越新聞(夕刊)	1941	昭和	16	1	17	県中等校入学考査 昨年通り三本建 三月二十二日から一斉に行ふ

No.	紙名	西暦	元号	年	月	日	見出し
607	上越新聞	1941	昭和	16	1	18	元気一杯 土に立つの覚悟 増産挺身隊員の所感
608	上越新聞(夕刊)	1941	昭和	16	1	18	高田高女勤労作業
609	上越新聞	1941	昭和	16	1	19	愈よ雪の南葉征服へ 東部六七部隊で耐寒行軍決行
610	上越新聞(夕刊)	1941	昭和	16	1	19	女子農業報国挺身隊 県下全市町村に設置
611	上越新聞	1941	昭和	16	1	20	吉川校児童の木炭運搬奉仕 頼母しい銃後風景
612	上越新聞(夕刊)	1941	昭和	16	1	28	北越線敷設請願書 あす鉄道・陸軍両省へ提出
613	上越新聞	1941	昭和	16	1	29	卒業児童の七割 軍需工場へ 新井小学校の就職状況
614	新潟読売	1941	昭和	16	4	18	直江津の近村合併 着々進捗す
615	新潟読売	1941	昭和	16	4	21	※上越地域の記事記載なし
616	新潟読売	1941	昭和	16	6	23	夏空の下に敢闘の花 女子中学総合体育大会 上越大会
617	新潟読売	1941	昭和	16	6	25	県教育会の官制化へ けふ風雲孕む代議員会
618	新潟読売	1941	昭和	16	6	28	県護国神社 新潟市に造営本極り
619	読売報知・新潟	1944	昭和	19	1	6	高田にスキー博物館
620	読売報知・新潟	1944	昭和	19	1	9	雪の健児二千 深夜のスキー大行軍 高田で二十四キロ踏破の壮挙
621	読売報知・新潟	1944	昭和	19	1	12	四大隊に編成 高田のスキー行軍
622	読売報知・新潟	1944	昭和	19	1	15	国立へ昇格 農試上越試験地の昇格決る
623	新潟日報	1945	昭和	20	5	12	中頸の山野菜採取割当
624	新潟日報	1945	昭和	20	5	15	町村の責任で増産 中頸の自家製塩